

作物名：うめ
病害虫名：灰色かび病（病原：*Botrytis cinerea* Persoon）



写真1 果実における病徴

1 被害の特徴と診断のポイント

- 主に花と果実に発病し、花では褐色の病斑を形成し、枯死した花弁やがく等から果実へ病勢が進展する。感染した果実は同心円状に腐敗し、表面に灰色のかびを生じる。

2 伝染源及び伝染方法

- 多犯性の菌であるため、多くの植物に寄生する。それらの罹病植物が伝染源となる。

3 発病しやすい条件

- 15℃～20℃、多湿条件が発病に好適である。幼果期に降雨が続くと発病が多くなる。

4 防除方法

- 剪定時に不必要な枝を剪除し、風通しを改善する。
- 開花期～幼果期に降雨が続く場合は薬剤防除を徹底し、発病を予防する。

5 出典

(1) 参考文献

- 日本植物病害大辞典（全国農村教育協会）
- ひと目でわかる果樹の病害虫第三巻（改訂版）（日本植物防疫協会）

(2) 写真

- 宮城県病害虫防除所撮影

（令和5年9月改訂）